

社長さんが知っておきたい
冠婚葬祭のマナー

ご葬儀と多様性

～社葬とお別れの会について③～

今回は「お別れの会」についてです。少し前までは、芸能人や著名人が亡くなった時に、故人を広くしのぶために開かれることもありましたが、一般の方にとって



は、まだ珍しいことでした。しかし、小規模なお葬式が増えるにつれ、お別れの会や、しのぶ会も珍しくなくなってきています。

「葬儀は近親者のみで。後日、別途お別れの会を行います」という場合でも、あらかじめお知らせすることで、日頃付き合いが深い取引先であっても、失礼に当た

ることはないでしょう。

また、お別れの会は、ご遺族や会社の意向によって、さまざまな形があります。例えば、ホテルを会場とする場合、葬儀会社とホテルと一緒に進めることもあります。お別れの会で献花をしたい、お焼香をしたいなど、宗教による気遣いが必要な場合ならば、対応できるホテル以外の会場もご紹介することが可能です。

開催する時期は、ご葬儀から1カ月後

程度が多く、一番大事なのは「訃報をお伝えするタイミング」です。

決して正解があるわけではありませんが、もし、お亡くなりになった方が会社の代表や重責の方だった場合、会社の今後のためにきちんとご連絡することをお勧めしています。

近親者のみの小規模なお葬式でも、葬儀が終わる前のタイミングでお伝えすることで、知らせを受け取った方も「知らな

かった」ということはありません。

もちろん、大企業などでは対外的に、すぐにはお知らせできない場合もありますので、お知らせするタイミングはケース・バイ・ケースだと思います。今後も変わらず、大切な取引先や友人であると考えるのであれば、相手の立場にも配慮した対応を心がけると良いでしょう。

今回もご参考になれば幸いです。

(fami友葬・清水ふじ代)